

大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類

審査意見への対応を記載した書類（3月）添付資料

資料 1	教育福祉学類 履修モデル	P. 2
資料 2	現代システム科学域に関するキーワードについての説明	P. 13
資料 3	地域保健学域（教育福祉学類）・学術情報センター講義室等配置図	P. 20
資料 4	教育福祉学類 カリキュラム・マップ	P. 24

教育福祉学類履修モデル（総合：非資格 No. 1）

PBLプログラム（ジェンダー論）を履修し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO法人に就職する場合

区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計	卒業要件 単位数			
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位					
基幹 教育 科目	初年次	初年次ゼミナール	2							2	35単位 以上			
	総合 教養 科目	ジェンダー論入門#	2	関西文学論	2									
		科学技術と社会	2	バリアフリー論	2									
		教育と文化	2											
		戦争と人間	2											
		エスニック・スタディ	2											
		歴史を学ぶとは	2											
	環境・生命・倫理	2										20		
	現代社会におけるキャリアデザイン	2												
	外国 語 科目	University English 1A	1	University English 3A	1								8	
University English 1B		1	University English 3B	1										
その他	University English 2A	1												
	University English 2B	1												
	フランス語入門1	1												
フランス語入門 2	1													
その他	情報リテラシー	2												
	健康・スポーツ科学概論	2												
	健康・スポーツ科学実習	1												
	18科目	14	15	4科目	3	3	0科目	0	0	0科目	0	0	35	
基礎 教育 科目	数学リテラシー1	2		統計学基礎1	2									
				統計学基礎2	2								6	
	1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0	6	
専 門 科 目	学域 共 通 科 目	情報システムとサステイナビリティ	2										12	
		自然システムとサステイナビリティ	2											
		社会システムとサステイナビリティ	2											
		人間システムとサステイナビリティ	2											
		教育福祉学概論	2											
		環境社会システム学概論	2											
	学類 基 盤 科 目	保育学概論＊＃		2	教育福祉学A＊ 教育福祉学B# 人間形成論 生涯学習概論 ソーシャルワーク概論 ジェンダーと社会＊＃ グローバル・コラボレーション論	2 2 2 2 2 2 2	教育福祉ゼミナールA 教育福祉ゼミナールB 教育福祉ゼミナールC 教育福祉ゼミナールD 社会福祉原論 コラボレーション論	2 2 2 2 2 2	教育福祉学卒業研究	3	3	34		
		学類 専 門 科 目	教育福祉フィールドワーク1 教育の思想と歴史	2 2	社会調査論 教育福祉の諸問題A(貧困と社会) 教育福祉の諸問題B(性と人権)＃ 教育福祉の諸問題C(多文化共生) 子ども家庭福祉論 教育福祉フィールドワーク2 教育福祉フィールドワーク3 ソーシャルワーク論A 乳児保育論# 共生の思想と歴史# 家族社会学# 教育福祉と健康	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワーク論B ソーシャルワーク論C 社会保障論 相談援助演習 特別支援教育 グローバル・コミュニケーション演習 セルフヘルプ・グループ論	2 2 2 2 2 2 2						
			9科目	8	10	19科目	18	20	13科目	14	12		1科目	3
	グ P ラ B ム L シ コ プ 目 ロ						PBL演習(ジェンダー論)＃	2						2
	0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	2	0	0科目	0	0	2	
単位総計	28科目	24	25	25科目	23	25	14科目	16	12	1科目	3	3	131	131単位以上

(注1)科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

(注3) *は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（総合：非資格 No. 2）

PBLプログラム（生涯学習と設計）を履修し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、NPO法人に就職する場合

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計	卒業要件 単位数
	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位		
基幹 教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2						2	35単位 以上
	総合 教養科目	ジェンダー論入門	2	関西文学論	2					
		科学技術と社会	2	バリアフリー論	2					
		教育と文化	2							
		戦争と人間	2							
		エスニック・スタディ	2							
基幹 教育科目	外国 語科目	歴史を学ぶとは	2							35単位 以上
		環境・生命・倫理	2							
		現代社会におけるキャリアデザイン	2							
		University English 1A	1	University English 3A	1					
		University English 1B	1	University English 3B	1					
		University English 2A	1							
基幹 教育科目	そ の 他	University English 2B	1							35単位 以上
		フランス語入門1	1							
		フランス語入門2	1							
		情報リテラシー	2							
		健康・スポーツ科学概論	2							
		健康・スポーツ科学実習	1							
基幹 教育科目		18科目	14	4科目	3	0科目	0	0科目	0	35
	基礎 教育科目	数学リテラシー1	2	統計学基礎1	2					96単位 以上
				統計学基礎2	2					
		1科目	2	2科目	2	0科目	0	0科目	0	
			0							
専門 科目	学 域 共 通 科 目	情報システムとサステイナビリティ	2							96単位 以上
		自然システムとサステイナビリティ	2							
		社会システムとサステイナビリティ	2							
		人間システムとサステイナビリティ	2							
		教育福祉学概論	2							
		環境社会システム学概論	2							
	学 類 基 盤 科 目	保育学概論＊＃	2	教育福祉学A＊	2	教育福祉ゼミナールA	2	教育福祉学卒業研究	3	96単位 以上
				教育福祉学B	2	教育福祉ゼミナールB	2		3	
				人間形成論	2	教育福祉ゼミナールC	2			
				生涯学習概論＃	2	教育福祉ゼミナールD	2			
				ソーシャルワーク概論	2	社会福祉原論	2			
				ジェンダーと社会＊	2	コラボレーション論	2			
専門 科目	学 類 専 門 科 目	グローバル・コラボレーション論	2							
		教育福祉フィールドワーク1	2	社会調査論	2	ソーシャルワーク論B	2			96単位 以上
		教育の思想と歴史	2	教育福祉の諸問題A(貧困と社会)	2	ソーシャルワーク論C	2			
				教育福祉の諸問題B(性と人権)	2	社会保障論	2			
				教育福祉の諸問題C(多文化共生)＃	2	相談援助演習	2			
				子ども家庭福祉論	2	特別支援教育	2			
	グ ラ ム L コ プ ロ	教育福祉フィールドワーク2	2	教育福祉フィールドワーク3	2	グローバル・コミュニケーション演習	2			
		ソーシャルワーク論A	2			教育社会学	2			
		乳児保育論	2							
		生涯スポーツ指導＃	2							
		家族社会学	2							
		教育福祉と健康	2							
専門 科目		9科目	8	19科目	18	13科目	14	1科目	3	42
			10		20		12		3	88
専門 科目	P B L コ プ ロ					PBL演習(生涯学習と設計)＃	1			2
		0科目	0	0科目	0	1科目	1	0科目	0	
単位総計		28科目	24	25科目	23	14科目	15	1科目	3	131

(注1)科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2)＃はPBLプログラム科目を示す。

(注3)＊は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（総合：非資格 No.3）

他学類科目が主体となるPBLプログラム（生きることと遊び）を履修し、身体と心のつながりについて実践的に学び、公務員（行政職）、地域活動NPOに就職する場合

	区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数
		科 目 名		単位	科 目 名		単位	科 目 名		単位	科 目 名		単位		
基幹教育科目	初年次	初年次ゼミナール		2										2	35単位 以上
	総合教養科目	ジェンダー論入門	2	2	文化人類学入門#	2									
		科学技術と社会	2		バリアフリー論	2									
		教育と文化	2												
		戦争と人間	2												
		エスニック・スタディ	2												
		歴史を学ぶとは	2												
	外国語科目	環境・生命・倫理	2												
		現代社会におけるキャリアデザイン	2												
		University English 1A	1		University English 3A	1									
その他	University English 1B	1		University English 3B	1										
	University English 2A	1													
	University English 2B	1													
	フランス語入門1	1													
フランス語入門2	1														
基礎教育科目	情報リテラシー	2													
	健康・スポーツ科学概論	2													
	健康・スポーツ科学実習	1													
		18科目	14	15	4科目	3	3	0科目	0	0	0科目	0	0	5	
		35													
専門科目	学域共通科目	数学リテラシー1	2		統計学基礎1	2									
					統計学基礎2	2									
		1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0		
専門科目	学類基盤科目	情報システムとサステイナビリティ	2												
		自然システムとサステイナビリティ	2												
		社会システムとサステイナビリティ	2												
		人間システムとサステイナビリティ	2												
		教育福祉学概論	2												
	学類専門科目	心理学概論	2												
		保育学概論＊	2	2	教育福祉学A＊	2	2	教育福祉ゼミナールA	2	2	教育福祉学卒業研究	3	3		
				教育福祉学B	2	2	教育福祉ゼミナールB	2	2						
				人間形成論	2	2	教育福祉ゼミナールC	2	2						
				生涯学習概論	2	2	教育福祉ゼミナールD	2	2						
G P B L C プ ロ			ソーシャルワーク概論	2	2	社会福祉原論	2	2							
			ジェンダーと社会＊	2	2	コラボレーション論	2	2							
			グローバル・コラボレーション論	2	2										
			教育福祉フィールドワーク1	2	2	社会調査論	2	2							
		9科目	8	10	17科目	16	18	12科目	16	8	1科目	3	3	36	
		82													
単位総計	28科目	24	25	25科目	23	25	14科目	20	8	1科目	3	3	131	131単位以上	

(注1)科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

(注3) *は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（教員免許資格取得（中学校社会＋高校公民））

PBLプログラム（ESD-A）を履修して中学社会と高校公民の教員免許を取得し、中学・高等学校または国際関係機関に就職する場合

区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計	卒業要件 単位数				
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位						
基幹 教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2							2	35単位 以上				
	総合 教養 科目	日本社会の歴史◇	2	現代の部落問題 文化人類学入門	2										
		科学技術と社会	2												
		教育と文化	2												
		西洋社会の歴史	2												
		日本国憲法	2												
		環境・生命・倫理	2												
エスニック・スタディ	2														
現代社会におけるキャリアデザイン	2								20						
外国 語 科目	University English 1A	1	University English 3A University English 3B	1											
	University English 1B	1													
	University English 2A	1													
	University English 2B	1													
ドイツ語入門 1	1							8							
ドイツ語入門2	1														
その他	情報リテラシー	2													
	健康・スポーツ科学概論	2													
	健康・スポーツ科学実習	1								5					
	18科目	14	15	4科目	3	3	0科目	0	0	0科目	0	0	35		
基礎 教育科目	数学リテラシー1	2	統計学基礎1 統計学基礎2	2								6			
				2								6			
	1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0	6		
専門 科目	学域 共通 科目	情報システムとサステイナビリティ	2								12				
		自然システムとサステイナビリティ	2												
		社会システムとサステイナビリティ	2												
		人間システムとサステイナビリティ	2												
		教育福祉学概論	2												
	環境社会システム学概論	2													
	学類 基盤 科目			教育福祉学A＊ 教育福祉学B 社会学基礎◇ ジェンダーと社会＊◇ 人間形成論□	2 2 2 2 2	教育福祉ゼミナールA 教育福祉ゼミナールB コラボレーション論	2 2 2	教育福祉学卒業研究	3	3	22				
学類 専門 科目		教育の法と制度□ 教育社会学□	2 2	地理学基礎◇ 日本史概説◇ 外国史◇ 日本の歴史環境◇ 共生の思想と歴史◇ 倫理学◇ 政治学◇ 社会科教育法(公民分野)1A◇ 社会科教育法(公民分野)2A◇ 地域研究◇ 教育課程論□ 教育方法論□ 教育相談論□ 道徳指導論□	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	国際教育と開発◇ 社会科教育法(地理分野)1A◇ 社会科教育法(地理分野)2A◇ 地域社会学◇ 刑事司法と福祉◇ 社会政策論◇ 社会保障論◇ 共生社会とアイデンティティ◇ 教育福祉の諸問題B(性と人権) 教育福祉の諸問題C(多文化共生) 教育福祉の諸問題A(貧困と社会)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				54				
		8科目	8	8	19科目	18	20	14科目	18	10	1科目	3	3	88	
	ロ P コ グ 目 B ラ ム プ						PBL演習(ESD-A)	2				2			
		0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	2	0	0科目	0	0	2	
	要卒単位小計		27科目	24	23	25科目	23	25	15科目	20	10	1科目	3	3	131
自由 科目	教職概論□ 教育基礎論□ 発達・学習論□ 教育制度論□	2 2 2 2	特別支援教育論□	2	特別活動論□ 総合的な探究の指導論□ 生徒・進路指導論□	2 2 2	教育実習事前事後指導(中・高)□ 教育実習(4単位)□ 教職実践演習(中・高)□	1 4 2				23			
	4科目	2	6	1科目	2	0	3科目	2	4	3科目	5	2	23		
	単位合計	31科目	26	29	26科目	25	25	18科目	22	14	4科目	8	5	154	131単位以上

(注1) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

(注3) *は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（社会福祉士資格）

PBLプログラム（地域および都市における排除・共生・参加）を履修して社会福祉士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO法人に就職する場合

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数
	科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位			
基 幹 教 育 科 目	初年次	初年次ゼミナール	2										2	35単位 以上
	総合 教 養 科 目	ジェンダー論入門	2	環境・生命・倫理	2								20	
		科学技術と社会	2	現代社会におけるキャリアデザイン	2									
		教育と文化	2	関西文学論	2									
		戦争と人間	2											
		エスニック・スタディ	2											
	歴史を学ぶとは	2												
バリアフリー論	2													
外 国 語 科 目	University English 1A	1	University English 3A	1									8	
	University English 1B	1	University English 3B	1										
そ の 他	University English 2A	1											5	
	University English 2B	1												
	フランス語入門1	1												
	フランス語入門 2	1												
	情報リテラシー	2												
	健康・スポーツ科学概論	2												
	健康・スポーツ科学実習	1												
	17科目	14	13	5科目	3	5	0科目	0	0	0科目	0	0	35	
基 礎 教 育 科 目	数学リテラシー1	2		統計学基礎1	2									
				統計学基礎2	2									
	1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0	6	
学 域 共 通 科 目	情報システムとサステイナビリティ	2											12	
	自然システムとサステイナビリティ	2												
	社会システムとサステイナビリティ	2												
	人間システムとサステイナビリティ	2												
	教育福祉学概論	2												
	環境社会システム学概論	2												
	学 類 基 盤 科 目	保育学概論＊	2	教育福祉学A＊	2	教育福祉ゼミナールA	2	教育福祉学卒業研究	3	3			24	
				教育福祉学B	2	教育福祉ゼミナールB	2							
	学 類 専 門 科 目			ソーシャルワーク概論	2	社会福祉原論＃	2						96単位 以上	
				社会学基礎	2	コラボレーション論	2							
教育福祉フィールドワーク1		2	社会調査論	2	社会福祉運営論	2								
心理学と心理的支援		2	教育福祉の諸問題A(貧困と社会)＃	2	権利擁護論	2								
医学概論(人体の構造と機能及び疾病)		2	障害者福祉論	2	社会政策論	2								
		地域福祉論A＃	2	社会保障論	2									
		地域福祉論B＃	2	セルフヘルプ・グループ論	2									
		医療福祉論	2	ソーシャルワーク論B	2									
		高齢者福祉論	2	ソーシャルワーク論C	2									
		子ども家庭福祉論	2	コミュニティとソーシャルワーク	2									
	教育福祉フィールドワーク2	2	相談援助演習	2										
	教育福祉フィールドワーク3	2	刑事司法と福祉	2										
	ソーシャルワーク論A	2	社会福祉実習2	2										
	社会福祉実習1	1	社会福祉実習指導2	1										
	社会福祉実習指導1	0.5	0.5											
	10科目	8	12	17科目	19.5	13.5	16科目	19	15	1科目	3	3	93	
グ ラ ム し 科 目 ロ						PBL演習(地域および都 市における排除・共生・ 参加)＃	1	1					2	
	0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	1	1	0科目	0	0	2	
単位総計	28科目	24	25	24科目	24.5	20.5	17科目	20	16	1科目	3	3	136	131単位以上

(注1) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

(注3) *は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（スクール・ソーシャルワーク資格）

PBLプログラム（コラボレーション）を履修してスクール・ソーシャルワーク資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO法人に就職する場合

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数	
	科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位				
基幹教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2										2	35単位 以上	
	総合教養科目	ジェンダー論入門	2	2	環境・生命・倫理	2									20
		科学技術と社会	2		現代社会におけるキャリアデザイン	2									
		教育と文化	2		関西文学論	2									
		戦争と人間	2		歴史を学ぶとは	2									
		エスニック・スタディ	2												
	外国語科目	University English 1A	1		University English 3A	1									8
		University English 1B	1		University English 3B	1									
		University English 2A	1												
	その他	University English 2B	1												5
フランス語入門1		1													
フランス語入門2		1													
	情報リテラシー	2											35		
	健康・スポーツ科学概論	2													
	健康・スポーツ科学実習	1													
	16科目	14	11	6科目	3	7	0科目	0	0	0科目	0	0	6		
基礎教育科目	数学リテラシー1	2		統計学基礎1	2								6		
				統計学基礎2	2										
	1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0		6	
専門科目	学域共通科目	情報システムとサステイナビリティ	2										12		
		自然システムとサステイナビリティ	2												
		社会システムとサステイナビリティ	2												
		人間システムとサステイナビリティ	2												
		教育福祉学概論	2												
	学類基盤科目	心理学概論	2											26	
		保育学概論*		2	教育福祉学A*	2		教育福祉ゼミナールA	2		教育福祉学卒業研究	3	3		
					教育福祉学B	2		教育福祉ゼミナールB	2						
					ソーシャルワーク概論	2		社会福祉原論#	2						
					スクール・ソーシャルワーク概論#	2		コラボレーション論	2						
	学類専門科目	教育福祉フィールドワーク1	2		社会調査論	2		社会福祉運営論	2		スクール・ソーシャルワーク実習	1	1	96単位 以上	
		心理学と心理的支援	2		教育福祉の諸問題A(貧困と社会)#	2		権利擁護論	2		スクール・ソーシャルワーク実習指導	0.5	0.5		
		医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	2		障害者福祉論	2		社会政策論	2						
		教育社会学#	2		地域福祉論A	2		社会保障論	2						
					地域福祉論B	2		セルフヘルプ・グループ論	2						
					医療福祉論	2		ソーシャルワーク論B	2						
					高齢者福祉論	2		ソーシャルワーク論C	2						
					子ども家庭福祉論	2		コミュニティとソーシャルワーク	2						
					教育福祉フィールドワーク2	2		相談援助演習	2						
					教育福祉フィールドワーク3	2		刑事司法と福祉	2						
					ソーシャルワーク論A	1		社会福祉実習2	2						
					社会福祉実習1	1		社会福祉実習指導2	1						
					社会福祉実習指導1	0.5	0.5	スクール・ソーシャルワーク演習	2						
								特別支援教育#	2						
								精神保健学	2						
		11科目	8	14	18科目	19.5	15.5	19科目	23	17	3科目	4.5	4.5	68	
	グ ラ ム シ コ プ ロ							PBL演習(コラボレーション)#	1	1				2	
		0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	1	1	0科目	0	0		
要卒単位小計	27科目	24	25	26科目	24.5	24.5	20科目	24	18	3科目	4.5	4.5	149	131単位以上	
自由科目	教職概論	2											2		
	1科目	2	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	2		
単位総計	29科目	26	25	26科目	24.5	24.5	20科目	24	18	3科目	4.5	4.5	149	131単位以上	

(注1) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

(注3) *は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（保育士資格）

PBLプログラム（ジェンダー論）を履修して保育士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO法人に就職する場合

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数													
	科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位																
基幹教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2										2	35単位 以上													
	総合 教養 科目	ジェンダー論入門 #	2	環境・生命・倫理	2								20														
		科学技術と社会	2																								
		教育と文化	2																								
		戦争と人間	2																								
		エスニック・スタディ	2																								
		歴史を学ぶとは	2																								
		子どもの生活と健康教育	2																								
	バリアフリー論	2	現代社会におけるキャリアデザイン	2																							
	外国 語 科目	University English 1A	1	University English 3A University English 3B	1	1							8														
University English 1B		1																									
University English 2A		1																									
	University English 2B	1																									
	フランス語入門1	1																									
	フランス語入門 2	1																									
そ の 他	情報リテラシー	2										5															
	健康・スポーツ科学概論	2																									
	健康・スポーツ科学実習	1																									
		19科目	14	17	3科目		3	1	0科目		0	0	0科目		0	0	35										
基礎教育科目	数学リテラシー1	2	統計学基礎1 統計学基礎2	2	2								6														
			1科目	2	0	2科目		2	2	0科目		0	0	0科目		0	0	6									
専門科目	学域 共通 科目	情報システムとサステイナビリティ	2										12														
		自然システムとサステイナビリティ	2																								
		社会システムとサステイナビリティ	2																								
		人間システムとサステイナビリティ	2																								
		教育福祉学概論	2																								
		環境社会システム学概論	2																								
	学類 基盤 科目	保育学概論＊＃		2	教育福祉学A＊ 教育福祉学B＃ ソーシャルワーク概論 人間形成論 ジェンダーと社会＊＃	2	2	教育福祉ゼミナールA 教育福祉ゼミナールB コラボレーション論	2	2	教育福祉学卒業研究	3	3	24													
	学類 専門 科目	心理学と心理的支援		2	家族社会学＃ 子ども家庭福祉論 乳児保育論＃ 保育者論 発達心理学1 保育内容演習A(総論・環境) 保育内容演習B(表現・言葉) 保育内容演習C(健康・人間関係) 保育の表現技術A 保育の表現技術B 保育実習1A 保育実習指導1A 教育福祉の諸問題A(貧困と社会) 教育福祉の諸問題B(性と人権)＃ 共生の思想と歴史＃	2	2	児童養護論 子どもの理解と援助 乳児保育演習 障がい児保育演習 養護内容演習 子どもの保健学 子どもの保健学演習 子どもの食と栄養 保育実習1B 保育実習指導1B 保育実習2 保育実習指導2 相談援助演習	2	1	保育の計画と評価	2		53													
グ ラ ム し 科 目 プ ロ						PBL演習(ジェンダー論)＃	2						2														
単位総計		28科目		24	25	25科目		25	22	17科目		15.5	12.5	2科目		5	3	132	131単位以上								

(注1) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

(注3) ＊は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（社会福祉士優先＋保育士資格）

PBLプログラム（地域および都市における排除・共生・参加）を履修して社会福祉士資格と保育士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NPO法人に就職する場合

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数	
	科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位				
基幹教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2										2	35単位 以上	
	総合教養科目	ジェンダー論入門	2	2	環境・生命・倫理	2									20
		科学技術と社会	2		現代社会におけるキャリアデザイン	2	2								
		教育と文化	2		子どもの生活と健康教育	2	2								
		戦争と人間	2												
		エスニック・スタディ	2												
	歴史を学ぶとは	2													
バリアフリー論	2														
外国語科目	University English 1A	1		University English 3A	1								8		
	University English 1B	1		University English 3B	1	1									
	University English 2A	1													
	University English 2B	1													
	フランス語入門1	1													
	フランス語入門 2	1													
その他	情報リテラシー	2											5		
	健康・スポーツ科学概論	2													
	健康・スポーツ科学実習	1													
	17科目	14	13	5科目	3	5	0科目	0	0	0科目	0	0	35		
基礎教育科目	数学リテラシー1	2		統計学基礎1	2								6		
				統計学基礎2	2	2									
	1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0		6	
専門科目	学域共通科目	情報システムとサステイナビリティ	2										12		
		自然システムとサステイナビリティ	2												
		社会システムとサステイナビリティ	2												
		人間システムとサステイナビリティ	2												
		教育福祉学概論	2	2											
	学類基盤科目	環境社会システム学概論	2	2											
		保育学概論＊		2	教育福祉学A＊	2		教育福祉ゼミナールA	2		教育福祉学卒業研究	3	3		
				教育福祉学B	2	2	教育福祉ゼミナールB	2	2	社会学基礎	2				
				ソーシャルワーク概論	2		コラボレーション論	2							
							社会福祉原論＃	2							
	学類専門科目	心理学と心理的支援	2	2	社会調査論	2	2	児童養護論	2		保育の計画と評価	2			
		教育福祉フィールドワーク1	2	2	子ども家庭福祉論	2	2	障がい児保育演習	2	2	発達心理学1	2			
		医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2	2	保育の表現技術A	2	2	養護内容演習	1	1	家族社会学	2			
				2	保育の表現技術B	2	2	子どもの保健学	2	2	保育内容演習A（総論・環境）	2			
				2	保育実習1A	2	2	子どもの保健学演習	1	1	保育内容演習B（表現・言葉）	2			
				2	保育実習指導1A	1	1	子どもの食と栄養	2	2	乳児保育演習		1		
				2	ソーシャルワーク論A	2	2	保育実習1B	1	1					
				2	障害者福祉論	2	2	保育実習指導1B	0.5	0.5					
				2	高齢者福祉論	2	2	保育実習2	2	2					
				2	地域福祉論A＃	2	2	保育実習指導2	1	1					
				2	地域福祉論B＃	2	2	相談援助演習	2	2					
				2	教育福祉の諸問題A（貧困と社会）＃	2	2	社会福祉運営論	2	2					
				2	医療福祉論	2	2	権利擁護論	2	2					
				2	教育福祉フィールドワーク2	2	2	社会保障論	2	2					
				2	教育福祉フィールドワーク3	2	2	セルフヘルプ・グループ論	2	2					
				1	社会福祉実習1	1	1	ソーシャルワーク論B	2	2					
				0.5	社会福祉実習指導1	0.5	0.5	ソーシャルワーク論C	2	2					
					保育内容演習C（健康・人間関係）	2	2	コミュニティとソーシャルワーク	2	2					
								刑事司法と福祉	2	2					
								社会福祉実習2	2	2					
								社会福祉実習指導2	1	1					
								社会政策論	2	2					
								乳児保育論	2	2					
								保育者論	2	2					
								子どもの理解と援助	1	1					
			10科目	8	12	21科目	19.5	20.5	29科目	26.5	28.5	8科目	15	4	
	G P B M L 科目プロ							PBL演習（地域および都市における排除・共生・参加）＃	1	1					
		0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	1	1	0科目	0	0		
		単位総計	28科目	24	25	28科目	24.5	27.5	30科目	27.5	29.5	8科目	15	4	
	（注1）科目名欄の下線は必修科目を示す。														
CAP外の実習科目を除く															
23.5 24.5															
24.5 24.5															
177															
131単位以上															

(注1) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

(注3) *は教育福祉学類の選択必修科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（保育士優先＋社会福祉士資格）

PBLプログラム（ジェンダー論）を履修して保育士資格と社会福祉士資格を取得し、公務員（行政職、福祉職、教育職）、社会福祉団体、NP0法人に就職する場合

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数	
	科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位				
基幹教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2										2	35単位 以上	
	総合 教養 科目	ジェンダー論入門 #	2	2	環境・生命・倫理	2									20
		科学技術と社会	2		現代社会におけるキャリアデザイン	2									
		教育と文化	2												
		戦争と人間	2												
		エスニック・スタディ	2												
	歴史を学ぶとは	2													
子どもの生活と健康教育	2														
バリアフリー論	2														
外国 語 科目	University English 1A	1		University English 3A	1									8	
	University English 1B	1		University English 3B	1										
	University English 2A	1													
	University English 2B	1													
	フランス語入門1	1													
フランス語入門 2	1														
そ の 他	情報リテラシー	2												5	
	健康・スポーツ科学概論	2													
	健康・スポーツ科学実習	1													
	18科目	14	15	4科目	3	3	0科目	0	0	0科目	0	0	35		
基礎教育科目	数学リテラシー1	2		統計学基礎1	2									6	
				統計学基礎2	2										
	1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0	6		
専門科目	学域 共通 科目	情報システムとサステイナビリティ	2											12	
		自然システムとサステイナビリティ	2												
		社会システムとサステイナビリティ	2												
		人間システムとサステイナビリティ	2												
		教育福祉学概論	2	2											
	環境社会システム学概論	2	2												
	学類 基盤 科目	保育学概論＊＃	2		教育福祉学A＊	2		教育福祉ゼミナールA	2		教育福祉学卒業研究	3	3	24	
					教育福祉学B＃	2		教育福祉ゼミナールB	2		社会学基礎	2			
					ソーシャルワーク概論	2		コラボレーション論	2						
								社会福祉原論＃	2						
学類 専門 科目	心理学と心理的支援 教育福祉フィールドワーク1	2	社会調査論	2	2	児童養護論	2	2	保育の計画と評価	2		2	96単位 以上		
		2	家族社会学＃	2	2	子どもの理解と援助	1	1	障害者福祉論	2					
			子ども家庭福祉論	2	2	乳児保育演習	1	1	高齢者福祉論	2					
			乳児保育論＃	2	2	障がい児保育演習	2	2	地域福祉論A	2					
			保育者論	2	2	養護内容演習	1	1	地域福祉論B	2					
			発達心理学1	2	2	子どもの保健学	2	2	社会政策論	2					
			保育内容演習A(総論・環境)	2	2	子どもの保健学演習	1	1	教育福祉の諸問題A(貧困と社会)	2					
			保育内容演習B(表現・言葉)	2	2	子どもの食と栄養	2	2							
			保育内容演習C(健康・人間関係)	2	2	保育実習1B	1	1							
			保育の表現技術A	2	2	保育実習指導1B	0.5	0.5							
			保育の表現技術B	2	2	保育実習2	2	2							
			保育実習1A	2	2	保育実習指導2	2	2							
			保育実習指導1A	1	1	相談援助演習	2	2							
			ソーシャルワーク論A	2	2	社会福祉運営論	2	2							
			教育福祉フィールドワーク2	2	2	地域福祉論A	2	2							
	教育福祉フィールドワーク3	2	2	地域福祉論B	2	2									
	社会福祉実習1	1	1	社会保障論	2	2									
	社会福祉実習指導1	0.5	0.5	セルフヘルプ・グループ論	2	2									
	医療福祉論	2	2	ソーシャルワーク論B	2	2									
				ソーシャルワーク論C	2	2									
				コミュニティとソーシャルワーク	2	2									
				医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	2	2									
				刑事司法と福祉	2	2									
				社会福祉実習2	2	2									
				社会福祉実習指導2	1	1									
	9科目	8	10	22科目	19.5	22.5	29科目	24.5	29.5	9科目	17	5	136		
グ P ラ B ム L 科 プ 目 ロ							PBL演習(ジェンダー論)＃	2					2		
	0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	2	0	0科目	0	0	2		
	単位総計	28科目	24	25	28科目	24.5	27.5	30科目	26.5	29.5	9科目	17	5	179	
(注1)科目名欄の下線は必修科目を示す。															
CAP外の実習科目を除く															

教育福祉学類履修モデル（未来デザインコース No. 1）

PBLプログラム（コラボレーション論）を履修し、未来デザインプログラムで教育情報学を学ぶことで、教育現場の問題を多職種連携で解決できる人材として、教育系スタートアップ企業に就職する場合

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数			
	科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位						
基幹 教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2										2	35単位 以上			
	総合 教養 科目	ジェンダー論入門	2	2	関西文学論		2								20		
		教育と文化	2		バリアフリー論	2											
		戦争と人間	2		環境・生命・倫理	2											
		エスニック・スタディ	2		科学技術と社会	2											
		歴史を学ぶとは	2														
	現代社会におけるキャリアデザイン	2															
	外国 語科 目	University English 1A	1		University English 3A	1									8		
		University English 1B	1		University English 3B	1											
		University English 2A	1														
University English 2B		1															
フランス語入門1		1															
フランス語入門 2	1																
そ の 他	情報リテラシー	2											5				
	健康・スポーツ科学概論	2															
	健康・スポーツ科学実習	1															
		16科目	12	13	6科目		7	3	0科目		0	0	0科目		0	0	35
基礎 教育 科目	数学リテラシー1	2	2	統計学基礎1	2								10				
	プログラミング入門A	2		統計学基礎2	2												
	プログラミング入門B	2															
		3科目	4	2	2科目		2	2	0科目		0	0	0科目		0	0	10
専 門 科 目	学 域 共 通 科 目	情報システムとサステイナビリティ	2										16				
		自然システムとサステイナビリティ	2														
		社会システムとサステイナビリティ	2														
		人間システムとサステイナビリティ	2														
		教育福祉学概論	2	2													
		環境社会システム学概論	2	2													
		心理学概論	2	2													
		知識情報システム学概論	2	2													
	学 類 基 盤 科 目				教育福祉学A	2	2	教育福祉ゼミナールA	2	2			22				
					教育福祉学B	2	2	教育福祉ゼミナールB	2	2							
					人間形成論	2	2	コラボレーション論#	2	2							
					生涯学習概論	2	2	スクール・ソーシャルワーク概論#	2	2							
	学 類 専 門 科 目				ジェンダーと社会	2	2	保育学概論	2	2			30				
					ソーシャルワーク概論	2	2										
					教育福祉の諸問題A(貧困と社会)	2	2	子ども家庭福祉論	2	2							
					教育福祉の諸問題B(性と人権)	2	2	障害者福祉論	2	2							
					教育福祉の諸問題C(多文化共生)	2	2	医療福祉論	2	2							
					教育課程論	2	2	国際教育と開発	2	2							
					教育方法論	2	2	子どもの保健学	2	2							
					教育の思想と歴史#	2	2	特別支援教育#	2	2							
グ ラ ム L 科 目				教育社会学#	2	2	教育福祉と健康	2	2			68					
				教育の法と制度	2	2											
		8科目	8	8	14科目		12	16	12科目		8	16	0科目		0	0	2
F D C	P B L 演 習						PBL演習(コラボレーション)#	1	1								2
																	2
	未来デザインインターンシップ	2	2	未来デザイン計画演習	2	2	未来デザインPBL演習	1	1	未来デザイン卒業研究	3	3					
F D C				情報ネットワーク基礎	2	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	2								22
				教育情報学	2	2	人工知能B	2	2								22
							教育・学習の理論と設計	2	2								22
		1科目	0	2	3科目		4	2	4科目		7	1	1科目		3	3	137
単位総計		28科目	24	25	25科目		25	23	17科目		16	18	1科目		3	3	137単位以上

(注1) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

教育福祉学類履修モデル（未来デザインコース No. 2）

PBLプログラム（ジェンダー論）を履修し、未来デザインプログラムで政策学関係の科目を学ぶことで、ジェンダーやダイバーシティに関わる課題を解決できる人材として、国際機関に就職する場合

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数		
	科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位		科 目 名	単 位					
基幹 教育科目	初年次	初年次ゼミナール	2										2	35単位 以上		
	総合 教養 科目	ジェンダー論入門# 教育と文化 歴史を学ぶとは 環境・生命・倫理 現代社会におけるキャリアデザイン	2 2 2 2	関西文学論 バリアフリー論	2	2	科学技術と社会 エスニック・スタディ 戦争と人間	2 2 2					20			
		外国 語科 目	University English 1A University English 1B University English 2A University English 2B フランス語入門1 フランス語入門 2	1 1 1 1 1 1	University English 3A University English 3B	1	1						8			
			そ の 他	情報リテラシー 健康・スポーツ科学概論 健康・スポーツ科学実習	2 2 1											5
				15科目	12	11	4科目	3	3	3科目	2	4	0科目		0	0
	基礎 教育科目		数学リテラシー1	2		統計学基礎1 統計学基礎2	2 2									6
		1科目	2	0	2科目	2	2	0科目	0	0	0科目	0	0		6	
専門 科目	学域 共通 科目	情報システムとサステイナビリティ 自然システムとサステイナビリティ 社会システムとサステイナビリティ 人間システムとサステイナビリティ 教育福祉学概論 環境社会システム学概論 心理学概論 知識情報システム学概論	2 2 2 2 2 2 2 2										16			
		保育学概論＊＃	2	教育福祉学A＊ 教育福祉学B# ソーシャルワーク概論 ジェンダーと社会＊＃ グローバル・コラボレーション論	2 2 2 2 2	教育福祉ゼミナールA 教育福祉ゼミナールB 社会福祉原論 コラボレーション論	2 2 2 2					20				
		教育福祉フィールドワーク1	2	社会調査論 教育福祉の諸問題A(貧困と社会) 教育福祉の諸問題B(性と人権)＃ 教育福祉の諸問題C(多文化共生) 子ども家庭福祉論 教育福祉フィールドワーク2 教育福祉フィールドワーク3 ソーシャルワーク論A 乳児保育論# 家族社会学# 教育福祉国際インターンシップ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワーク論B ソーシャルワーク論C 社会保障論 相談援助演習 グローバル・コミュニケーション演習 教育社会学	2 2 2 2 2				36					
		10科目	8	12	16科目	14	18	10科目	12	8	0科目	0	0	72		
	グ ラ ム L 科 目						PBL演習(ジェンダー論)＃	2					2			
		0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	2	0	0科目	0	0	2		
	F D C	未来デザインインターンシップ	2	未来デザイン計画演習 政治学 公共政策学基礎	2 2 2	未来デザインPBL演習 国際法と共生社会 環境政策学 国際政治学	1 1 2 2	未来デザイン卒業研究	3	3				22		
		1科目	0	2	3科目	4	2	4科目	3	5	1科目	3	3	22		
単位総計		27科目	22	25	25科目	23	25	18科目	19	17	1科目	3	3	137	137単位以上	

(注1) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(注2) #はPBLプログラム科目を示す。

現代システム科学域に関するキーワードについての説明

【サステナビリティ（Sustainability）】

国連環境計画（UNEP：United Nations Environment Programme）の下で開かれた環境と開発に関する世界委員会（WCED：World Commission on Environment and Development）は、1987年に最終レポート「我ら共有の未来（Our Common Future）」を発表し、その第1部第2章前文冒頭で、持続可能な開発（Sustainable Development）を次のように定義した。「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発（Sustainable development is development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs.）」。

定義に続く前文の最後には、世代間の公平性（equity between generations）だけでなく、各世代における公平性（equity within each generation）も担保されなければならないと記されており、資源へのアクセスに対して不公平が起こらないよう、地域間の格差や経済的な格差によらず、誰もが等しく資源を享受できることがサステナビリティには必要であるとしている。この理念は、2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ（2030 Agenda for Sustainable Development）」の前文に記されている、「我々は誰一人取り残さないと固く誓う（We pledge that no one will be left behind.）」へと引き継がれている。

さらに、第1部第2章第1節では、「ニーズ」について解説されている部分があり、衣食住など、貧困層でも最低限生きるために必要な基本的ニーズ（essential needs）を満たすことが最優先であり、その先に社会面や文化面も含む生活の質（quality of life）の改善があるとしている。このような「ニーズ」を満たすという概念は、1948年に提出された世界保健機関（WHO：World Health Organization）憲章によって定義された健康「健康とは、身体面、精神面、社会面における、すべてのウェルビーイング（良好性）の状況を指し、単に病気・病弱でない事とは意味しない（Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.）」を最低限保障するという概念に一致する。

以上のことから、本学域においては、サステナビリティ（sustainability）を、「誰一人取り残すことなくすべての人々の尊厳が守られ、人としての包括的なウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）が世代を超えて保障される状態」と定義し、その状態が保たれている社会を持続可能な社会（sustainable society）と定義する。

【サステナビリティ学（Sustainability Science）】

サステナビリティに関する学問体系を構築する試みは、東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、茨城大学の5大学によって、2005年に東京大学内に設置された、サステナビリティ学連携研究機構（IR3S：Integrated Research System for Sustainability Science）によって行われた。2009年に東京大学で第1回国際サステナビリティ学会議（ICSS：International Conference on Sustainability Science）が開催され、翌年には一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム（SSC：Sustainability

Science Consortium) が設立された。さらに、2012 年にアリゾナ州立大学で開催された第 3 回 ICSS において、東京大学、ローマ大学サピエンツァ、国際連合大学、アリゾナ州立大学の 4 大学を幹事大学とする、国際サステナビリティ学会 (ISSS: International Society for Sustainability Science) が発足し、以来毎年 ICSS の開催や国際学術雑誌「Sustainability Science」の発行などが行われている。

IR3S は、サステナビリティ学 (sustainability science) を構成する 3 つの要素として、気候システム、資源・エネルギー、生態系などから成る地球システム (global system)、政治、経済、産業、技術などから成る社会システム (social system)、安全、ライフスタイル、健康、価値規範などから成る人間システム (human system) を挙げている (図 1)。

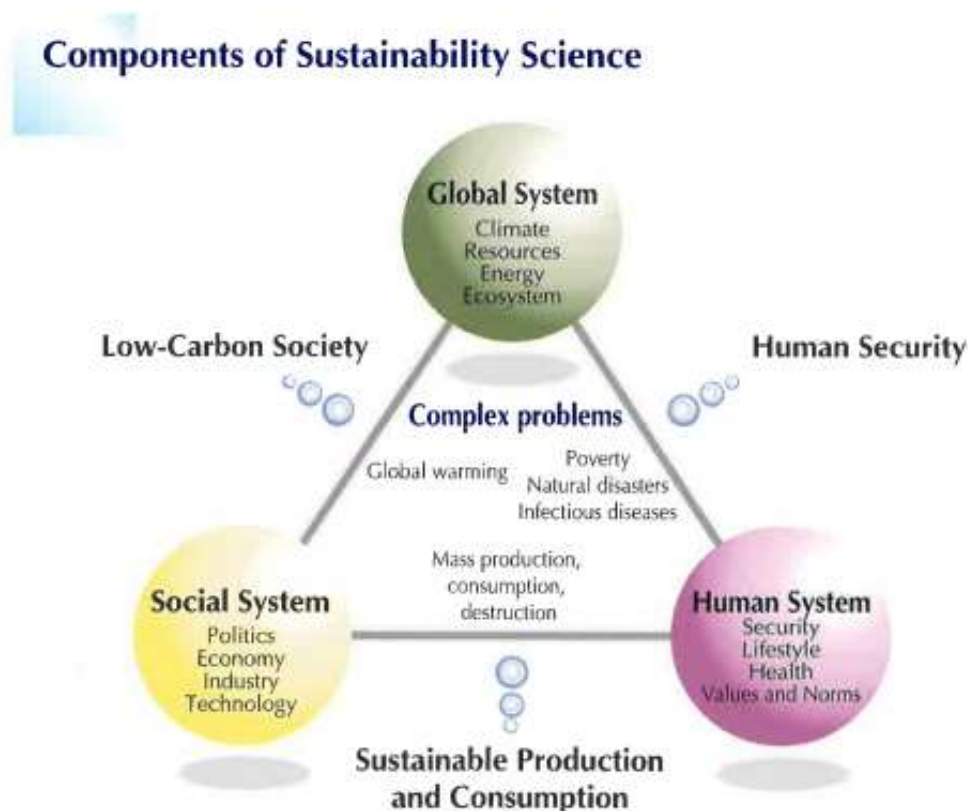


図 1 サステナビリティ学 (Sustainability Science) を構成するシステム

(茨城大学 HP, <http://www.grad.ibaraki.ac.jp/gpss/english/index.html>, より 2021/1/4 ダウンロード)

【持続可能システム (Sustainable System)】

2015 年の国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ (2030 Agenda for Sustainable Development)」の前文に続く宣言には、イントロダクションとして 6 項目の我々が取り組むべき課題が記され、その後に我々のビジョンとして、下記に示す 3 項目の目指すべき世界像が述べられている。

(2030 アジェンダの「宣言」日本語訳から抜粋)

7. これらの目標とターゲットにおいて、我々は最高に野心的かつ変革的なビジョンを設定している。我々は、すべての人生が栄える、貧困、飢餓、病気及び欠乏から自由な世界を思い描く。我々は、恐怖と暴力から自由な世界を思い描く。すべての人が読み書きできる世界。すべてのレベルにおいて質の高い教育、保健医療及び社会保護に公平かつ普遍的にアクセスできる世界。身体的、精神的、社会的福祉が保障される世界。安全な飲料水と衛生に関する人権を再確認し、衛生状態が改善している世界。十分に、安全で、購入可能、また、栄養のある食料がある世界。住居が安全、強靱（レジリエント）かつ持続可能である世界。そして安価な、信頼でき、持続可能なエネルギーに誰もがアクセスできる世界。

8. 我々は、人権、人の尊厳、法の支配、正義、平等及び差別のないこと、人種、民族及び文化的多様性。人間の潜在力を完全に実現し、繁栄を共有することに資することができる平等な機会が与えられる世界。子供たちに投資し、すべての子供が暴力及び搾取から解放される世界。すべての女性と女兒が完全なジェンダー平等を享受し、その能力強化を阻む法的、社会的、経済的な障害が取り除かれる世界。そして、最も脆弱な人々のニーズが満たされる、公正で、衡平で、寛容で、開かれており、社会的に包摂的な世界。

9. 我々は、すべての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長と働きがいのある人間らしい仕事を享受できる世界を思い描く。消費と生産パターン、そして空気、土地、河川、湖、帯水層、海洋といったすべての天然資源の利用が持続可能である世界。民主主義、グッドガバナンス、法の支配、そしてまたそれらを可能にする国内・国際環境が、持続的で包摂的な経済成長、社会開発、環境保護及び貧困・飢餓撲滅を含めた、持続可能な開発にとってきわめて重要である世界。技術開発とその応用が気候変動に配慮しており、生物多様性を尊重し、強靱（レジリエント）なものである世界。人類が自然と調和し、野生動植物その他の種が保護される世界。

このような目指すべき世界像を念頭に、サステイナビリティ学で挙げられた 3 つのシステムを、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などから成る自然システム（natural system）、ガバナンス、異・多文化共生、ジェンダー、万人・生涯支援、社会保障などから成る社会システム（social system）、哲学・倫理、自・異文化理解、万人・生涯教育、人間心理などから成る人間システム（human system）として捉え直すとともに、サステイナビリティ学では社会システムの一つとして位置付けられる情報システム（information system）を、他の 3 つのシステムをつなぐ役割を果たす重要な要素として独立させることによってできた 4 つのサブシステム全体を、一つの集合体として、持続可能システム（sustainable system）と定義する（図 2）。

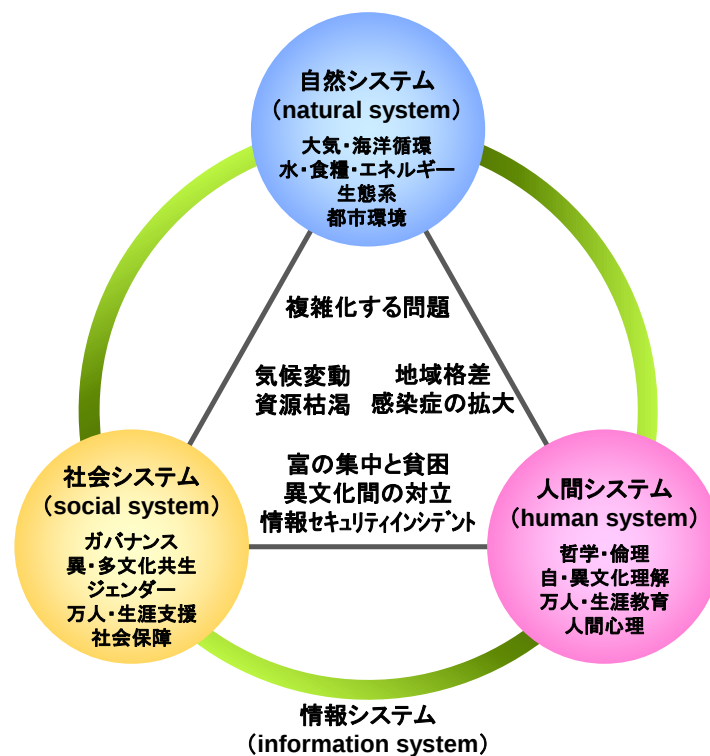


図2 持続可能システム（Sustainable System）を構成するシステム

【現代システム科学（Sustainable System Sciences）】

現代社会には、気候変動や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値観の違いによる国家・地域間の対立、心の病と生きる意味の喪失、日本に代表される社会の高齢化の進行、情報セキュリティインシデントなど、実にさまざまな問題が存在し、我々の暮らしに大きな脅威を与えている。すなわち、現代社会は持続不可能な社会であるということである。2012年4月に設置された現代システム科学域では、「持続不可能な現代社会を持続可能な社会に変革するための持続可能システム科学」として「現代システム科学」を定義した。しかし、「現代システム科学」を Contemporary System Sciences のように直訳しても、その意味は伝わりにくい。そこで、国際的な通用性も考慮した上で、「持続可能システム科学」の部分抜き出して Sustainable System Sciences を英訳名称として用いることにした*。

*補足：大阪府立大学現代システム科学域は、2022年4月に設置10年目を迎える。2016年3月以来1,487人の卒業生を社会に送り出し、また設置以来継続して「現代システム科学域連続セミナー」を開催して延べ3,962人を集めるなど、大阪を中心とした地域に「現代システム科学」の考え方を定着されるための努力を重ねてきた。新大学においても引き続き「現代システム科学域」の名称を維持することが、本学域の卒業生、新大学を志望する受験生、近隣の地域の人々にとっても望ましいと考えられる。英訳名称についても、上記のように直訳ではその意味を伝えにくいことから、引き続き Sustainable System Sciences を使用する。

このような現代システム科学（Sustainable System Sciences）には、自然システムの持続可能性を理解するうえで必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然科学、社会システムおよび人間システムの持続可能性を理解するうえで必要となる歴史学、言語学、政策科学、法律学、経済学などの人文・社会科学、および哲学、倫理学、社会学、社会福祉学、教育学、心理学などの人間科学、情報システムの持続可能性を理解するうえで必要となる情報システム学、知能情報学など情報学の各要素が必要である（図3）。

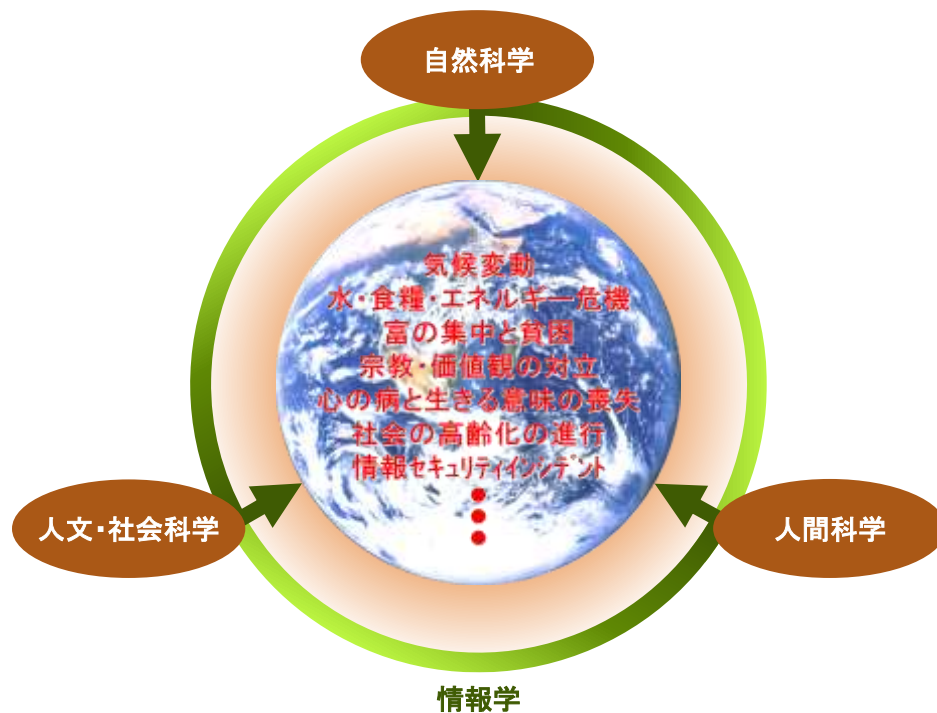


図3 現代システム科学（Sustainable System Sciences）の概念

持続可能システム（図2）を構成する4つのシステムと、現代システム科学（図3）に必要とされる4つの学問分野は、必ずしも1対1の関係にはなっていない。現代システム科学域を構成する学類を設定する際には、主な対象となるシステムと、主な基盤学問分野の組み合わせにより、ターゲットとなる教育研究分野を整理することが重要である。ここでは、教育研究分野の親和性と、想定される進路を見据えたカリキュラム構成の適合性を考慮し、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の4学類で現代システム科学域を構成することとした（表1）。

表 1 現代システム科学域を構成する 4 学類

知識情報システム学類 (学生定員:60)	環境社会システム学類 (学生定員:100)	教育福祉学類 (学生定員:55)	心理学類 (学生定員:45)
主な教育研究分野: 情報システム学 情報通信工学 人工知能学 応用情報学 主な対象とするシステム: 情報システム 社会システム 人間システム 主な基盤学問分野: 情報学 人間科学 学位又は学科の分野 工学、理学	主な教育研究分野: 自然環境学 社会環境学 環境共生学 主な対象とするシステム: 自然システム 社会システム 人間システム 主な基盤学問分野: 自然科学 人文・社会科学 人間科学 学位又は学科の分野 文学、経済学、 工学、農学	主な教育研究分野: 社会福祉学 保育学 教育学 ジェンダー論 主な対象とするシステム: 社会システム 人間システム 主な基盤学問分野: 人文・社会科学 人間科学 学位又は学科の分野 教育学・保育学、 社会学・社会福祉学	主な教育研究分野: 認知科学 社会・環境心理学 臨床心理学 主な対象とするシステム: 情報システム 人間システム 主な基盤学問分野: 人間科学 情報学 学位又は学科の分野 文学
学士(情報学) 学士(学術)	学士(環境社会システム学) 学士(学術)	学士(教育福祉学) 学士(学術)	学士(心理学) 学士(学術)

〔知識情報システム学類〕

持続可能システムのうち、主に情報システム、社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に情報学、人間科学を基盤学問分野とする。情報・通信系企業などへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

現代社会の維持・発展に不可欠となっている情報システムについて理解するとともに、持続可能な社会を実現するための課題解決の手段として活用することができるような情報システムを主体的にデザインする能力、また急速に進歩し続ける情報通信技術を積極的に取り入れる態度を身に付けることで、社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材を養成する。

〔環境社会システム学類〕

持続可能システムのうち、主に自然システム、社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野とする。さまざまな職種の企業、公務員、NPO など多種多様な進路を見据え、以下のような人材を養成する。

自然システムの持続可能性を理解するために必要となる自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる環境共生学の観点から、領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。

〔教育福祉学類〕

持続可能システムのうち、主に社会システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野とする。社会福祉士および保育士の資格取得、公務員、医療・福祉関係などへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

持続可能な社会を実現するために、現代社会の諸問題を深く理解するとともに、複合的な

視野から社会の仕組みをよりよいものに変革していくことのできる力をもち、地域社会から国際社会までの広範な領域で活躍できる人材を養成する。

〔心理学類〕

持続可能システムのうち、主に情報システム、人間システムを対象とし、現代システム科学のうち、主に情報学、人間科学を基盤学問分野とする。公認心理師の資格取得、公務員、カウンセラーなどへの進路を見据え、以下のような人材を養成する。

現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識・技能とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。

【領域横断的応用力】

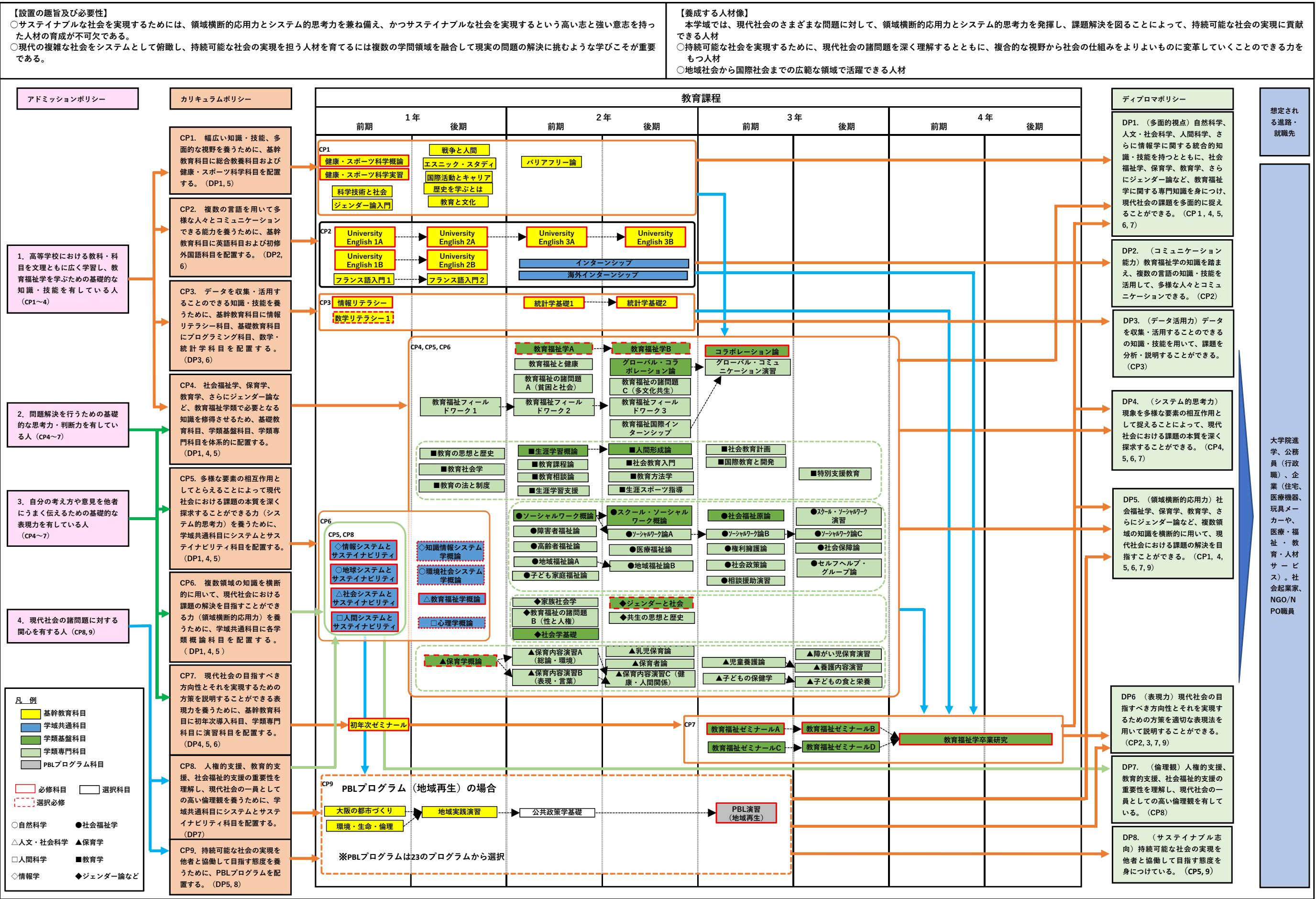
持続可能システム科学（sustainable system sciences）には、資源・エネルギーの持続的利用やそれを支える生態系の保全に必要な自然科学、多様な歴史や文化、言語を背景に持つ人々が共生するための社会の仕組みづくりに必要な人文・社会科学、便利さや物質的豊かさを際限なく追及するのではなく、限りある資源を分かち合うことですべての人のウェルビーイングを実現するための人間科学、さらに、これらの幅広い知識をできるだけ広範囲で効率的に共有し活用するための情報学が構成要素として含まれている。このような「幅広い知識・技能をバランスよく理解し、ある領域の知識・技能を別の領域に適用したり、複数の領域の知識・技能を融合させたりすることのできる能力」のことを、ここでは「領域横断的応用力」と定義する。

【システムの思考力】

システム（system）は、ギリシア語の「共に」を意味する syn と、「立つ」を意味する stema からなる造語で、共に立つ、共立、共存、という意味である。広辞苑では、「複数の要素が有機的に関係しあい、全体としてまとまった機能を発揮している要素の集合体。」と記されている。持続可能な社会を実現するためには、気候システム（climate system）や生態系（ecosystem）などの自然システム（natural system）、法体系（legal system）や経済システム（economic system）などの社会システム（social system）、ウェルビーイング（wellbeing）を実現するための教育福祉やシステムとしての人間の心（mind as system）といった人間システム（human system）、さらにそれらのシステムをつなぐ役割を果たす情報システム（information system）等、さまざまな「システム」を理解しなければならない。これらのシステムは、いずれも多くの構成要素が各々の相互作用を伴って全体として変化するが、このような「構成要素間の相互作用を理解し、全体の変化を予測したり新たな変化を考え出したりすることのできる能力」のことを、ここでは「システムの思考力」と定義する。

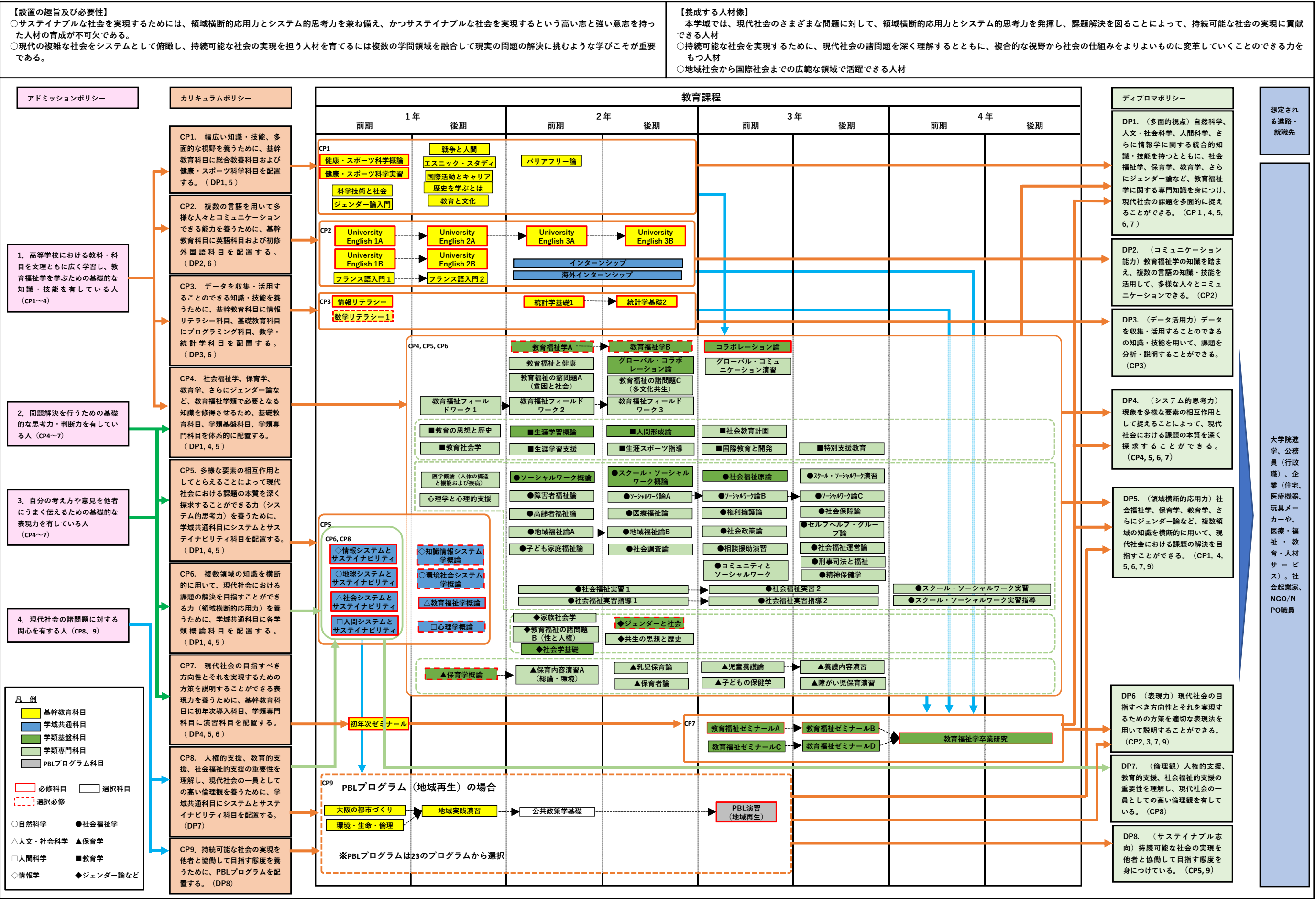
以上

現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉総合志向：教育福祉学全体を学び、多面的視点から持続可能な社会の実現に寄与する）



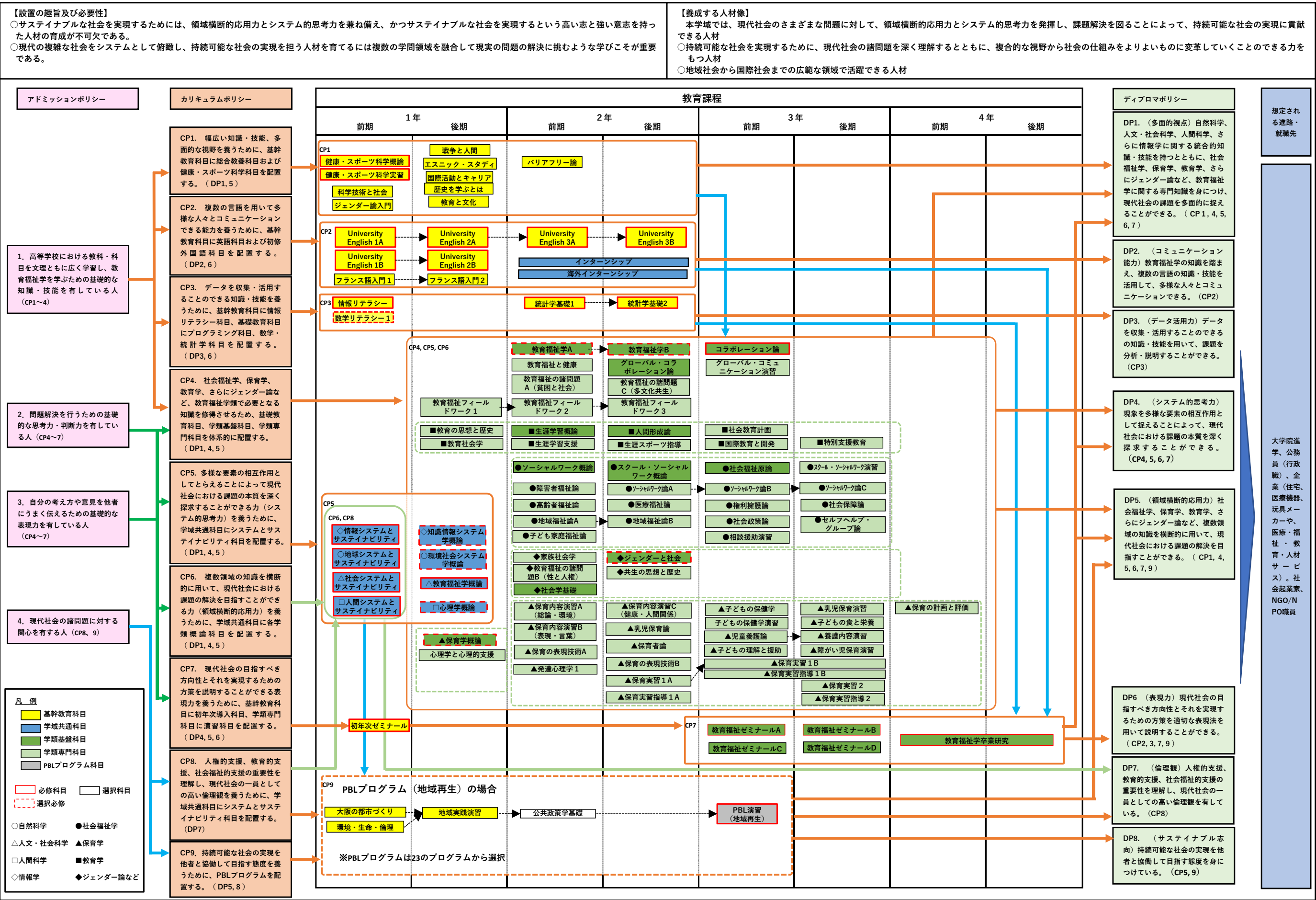
※繋がりが方を分かりやすくするために矢印の色を変えている部分があるが、色自体に意味はない。

現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉の福祉志向モデル：教育福祉を学びながら社会福祉士やsswの資格取得を目指す）



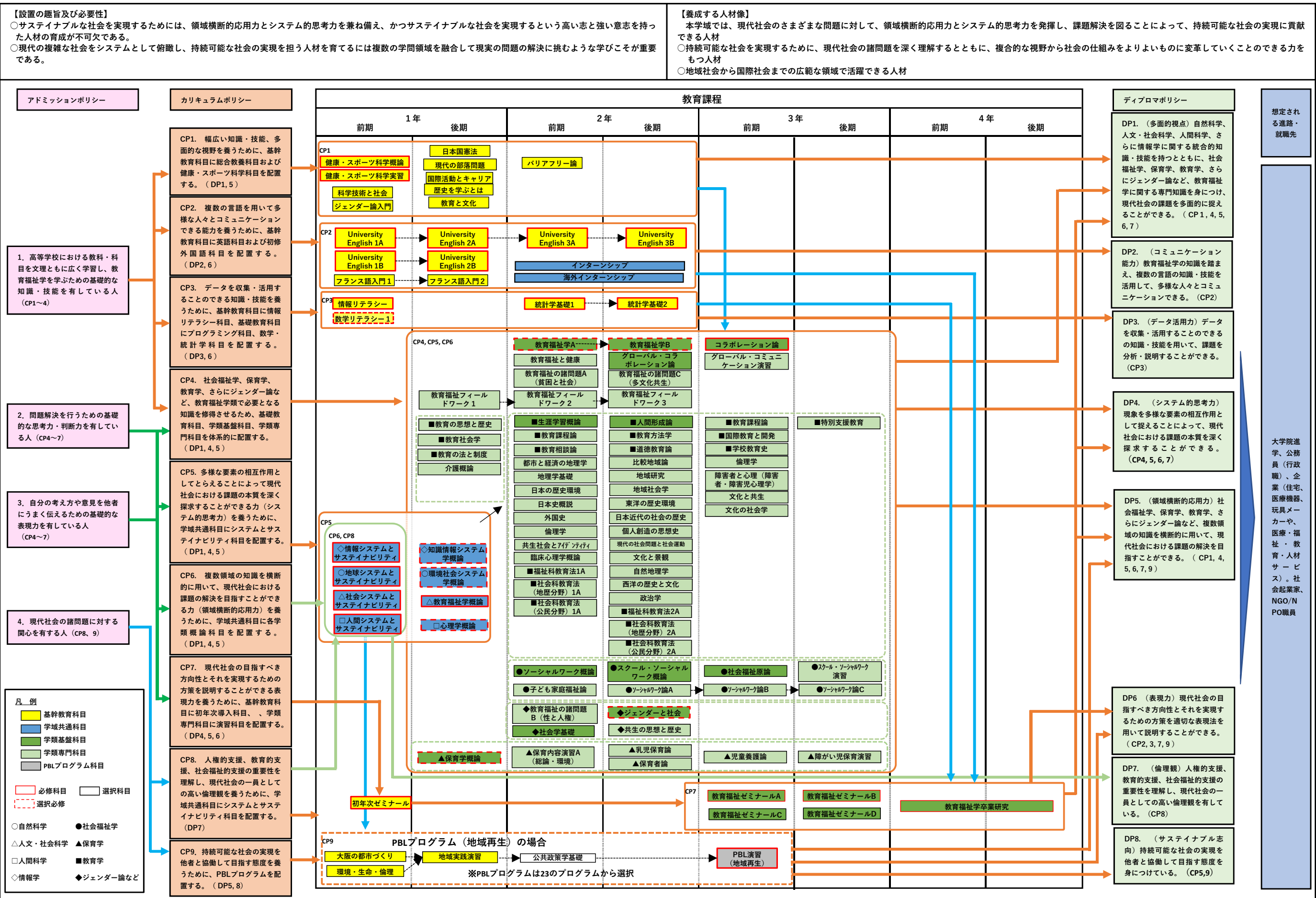
※繋がりが方を分かりやすくするために矢印の色を変えている部分があるが、色自体に意味はない。

現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉の保育志向モデル：教育福祉を学びながら保育士資格取得を目指す）



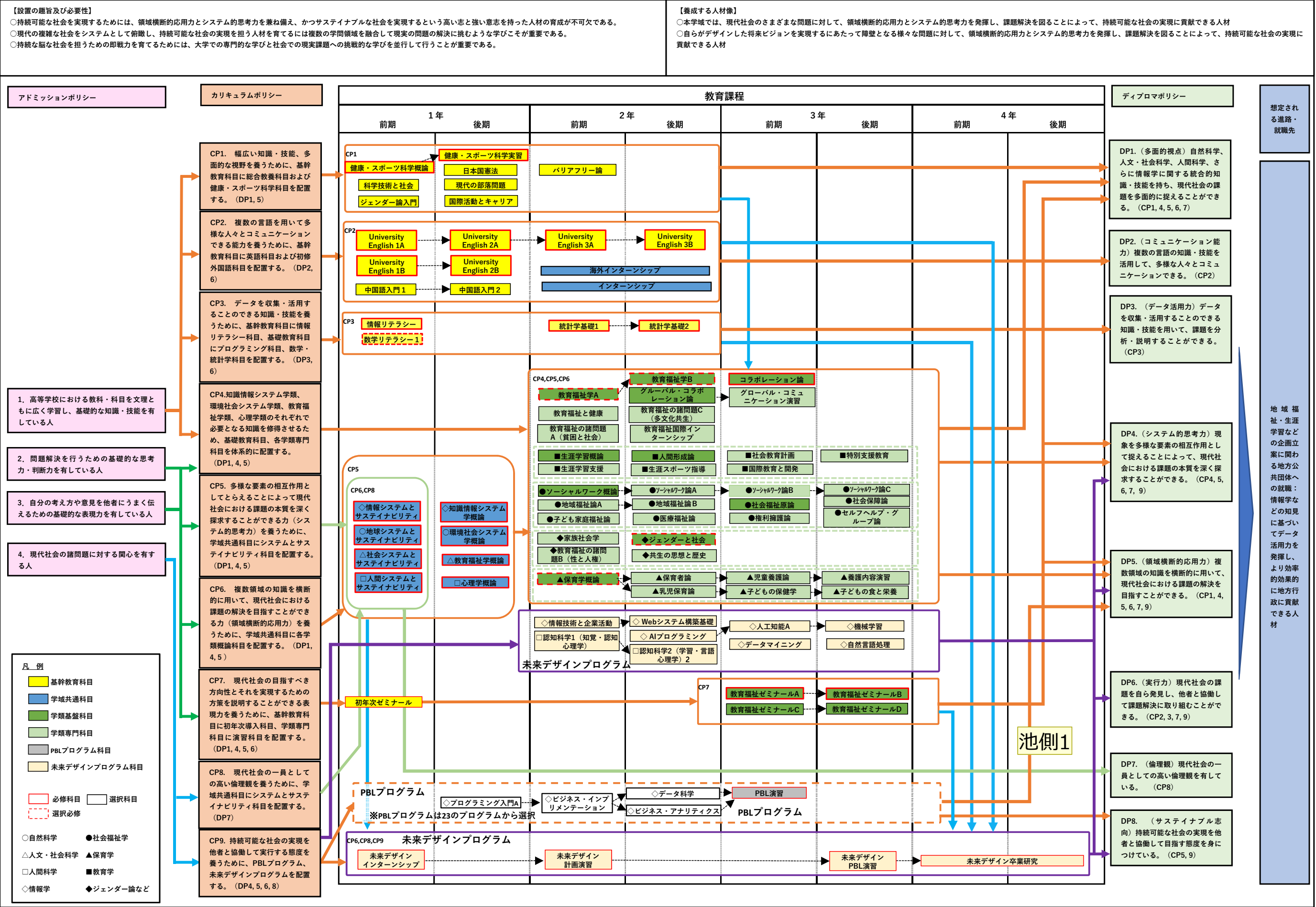
※繋がりが方を分かりやすくするために矢印の色を変えている部分があるが、色自体に意味はない。

現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉教育志向：教育福祉学を学びながら教員免許の取得を目指す）



※繋がりが方を分かりやすくするために矢印の色を変えている部分があるが、色自体に意味はない。

現代システム科学域 教育福祉学類 未来デザインコースカリキュラムマップ



※繋がりが方を分かりやすくするために矢印の色を変えている部分があるが、色自体に意味はない。